

「知らなかった救いが来た」

ヨハネによる福音書 1:19-28

2025年12月28日

野村 友美 師

### <あなたは誰>

先週は、世界中の教会でクリスマスをお祝いしました。私たちのこの呉教会でも、クリスマス礼拝と祝会、子どもクリスマス会、イブ礼拝と、今年もたくさんの方と一緒に嬉しくお祝いすることができて、本当に感謝でした。

教会に限らず、あちこちの商業施設でも自治体でも、それぞれのご家庭でも、毎年この時期にはクリスマスをお祝いしますよね。

広島市内では12月の初めから25日まで、クリスマスマーケットが開催されていたそうで、ちょっと覗いてみたかったです。

呉市でも子どものためのクリスマスイベントがあつたりして、今年はうちの教会の子どもクリスマス会と日程が重なったので、けっこうヒヤヒヤしました。

そうやっていろんなところでクリスマスを楽しめますから、わざわざ教会でクリスマスを祝う人は、この日本の社会では少数派だと言えるかもしれません。

もちろんクリスチヤンだけじゃなくて、教会に来るのは初めての人でも、誰でもがクリスマスを教会でお祝いできますし、普段の礼拝にも参加していただけます。とは言え、馴染みがない場

所に入って来るのは、なかなか勇気がいることでしょう。

だからこそ教会は、誰でもができるだけ安心して過ごしていただけるように、いつも心がけていたいと思います。

さて、「安心」と一言でいいますが、私たちは何に安心して、何に不安を感じるでしょうか。

いろいろあるとは思いますが、自分が知っていることや出会ったことがあるものは、ホッとして安心できますよね。逆に、知らないもの、今までに出会ったことがないものに対して、私たちは不安を感じます。

だから初めて会う人同士だと、まずは「私はこういう者です」と自己紹介をすることから始めことが多いでしょう。

どこに住んでいて、どこに属していて、どんな生活をしているのか。どこで生まれ育ったのか、何が好きか、どういう人生を歩んできたのか。目の前の相手のあれやこれやを知ることで、私たちは安心できます。

今日の聖書の物語も、安心したい人たちからの「あなたは誰？」という質問で始まりました。

### <洗礼者ヨハネ>

「あなたは誰？」と聞かれたのは、洗礼者ヨハネと呼ばれていた人物です。

彼はユダヤ教の祭司ザカリヤという人の息子でした。ザカリヤはエルサレムの神殿で天使から、奥さんのエリサベトとの間に一人の男の子が生まれる、とお告げを受けました。

ザカリヤとエリサベトには、結婚してから長い間子どもが生まれなくて、もう二人とも子どもを生むのは諦めるぐらいの年齢になっていたそうです。

ですが、天使のお告げ通りに男の子が生まれてきて、ザカリヤは天使に言われていた「ヨハネ」という名前をその子に付けました。

ヨハネは成長して、やがて一人で人のいない荒れ野に住んで、動物の毛皮を服にして、イナゴや草花の蜜を食べて生活するようになります。それだけでもかなり不思議な人ですが、ある時からヨハネはイスラエルの人たちに向かって、「罪を悔い改めなさい」と呼びかけ始めました。神様が約束しておられた救い主、メシアがいよいよやって来る。だからあなたたちはみんな自分の罪を認めて、悔い改めて、救い主を迎える準備をしなさい。そう呼びかけて、ヨルダン川の水で人々に洗礼を授け始めたんです。

そんなヨハネのところに、エルサレムのユダヤ人たち、つまり首都に住むイスラエルの指導者たちが、祭司とレビ人を派遣しました。

そういう場面から、今日の物語は始まります。この当時、ユダヤ教の祭司という仕事は、親から子へ代々受け継がれていました。

ですから神殿の祭司だったザカリヤの息子のヨハネも、周りからは祭司の一人だと見なされていたんです。本来なら他の祭司たちと同じように、神殿で働いているはずの人なのに、何だか今までにおかしなことを始めている。

どうしてヨハネはそんなことをしているのか。それを確認させるために、指導者たちは祭司やレビ人たち、つまり神殿の仕事の専門家を派遣

したんです。

ヨハネの行動も生活も、服装や食べ物も、今までにないものでしたが、特に「洗礼を授けている」というところが問題になりました。ユダヤ教の洗礼は本来、汚れを清めるために自分で水に浸かるものですから、「人から人に洗礼を授ける」ということ自体が、今までにないことだったんです。

そして多くの場合、洗礼は他の宗教からユダヤ教に改宗する人たち、つまり外国人たちがイスラエルの社会に受け入れられるための儀式として行われていました。

異教徒として生まれ育った汚れを洗い流すこと、イスラエルの一員になることを認められる、というわけです。

なのにヨハネはもともとイスラエルの民である人たちに、しかも罪を悔い改めるしとして洗礼を授けている。このことも、指導者たちを驚かせたようです。

当時の律法では、罪の悔い改めを示すためには、神殿で犠牲を捧げなくてはならないと決められていました。神殿での犠牲をすっ飛ばして、罪の悔い改めを認めるなんて、一体どういうことだ？ 意味がわからぬい、自分たちが知っているやり方じゃない。ヨハネが一体どういうつもりなのか、確かめなくてはいけない。

そんな風に、イスラエルの指導者たちはヨハネがしていることに不安を感じたんです。

それでも彼らは、ヨハネの行動を何とか自分たちの理解に当てはめようとして、いろいろ考えました。

もしヨハネが、預言者たちが予告していたメシアだったら。きっと昔のダビデ王のように、これからイスラエルを導いて、神様の力で他の国々を従わせてくれるに違いない。

メシアじゃなかったとしても、エリヤや他の偉大な預言者の生き返りだったら、それはそれで安心できる。

今までにも存在したことがある預言者の誰かなら、ちょっとぐらい不思議なことをして、きっと今までどおりに収まってくれるはずだ。

そう指導者たちは考えたんでしょうね。

だからヨハネに会いに来た祭司とレビ人たちも、ヨハネにまずこう尋ねました。

あなたはどなたですか？

メシアですか、預言者エリヤですか、それとも他の預言者ですか？

でも、ヨハネの答えは「どれも違う」でした。

私は荒れ野で叫ぶ声だ。

それがヨハネの自己紹介だったんです。

<知らなかつた救いが來た>

昔、預言者イザヤを通して神様が予告なさつた「荒野で叫ぶ声」。救い主が來ることをみんなに伝えて、救い主を迎える準備をさせる声。それが私だ、とヨハネは自分のことを紹介しています。

これには質問した祭司とレビ人たちも、ますます困ったでしょうね。ヨハネが自分たちの知っている昔の王様や預言者じゃなくて、今はじめて現れてこれから何をするのかわからない、予想外の存在だとわかったんですから。

遣わされた人々はファリサイ派に属していた、

と福音書は紹介しています。

それはつまり、彼らが神殿の仕事だけじゃなくて、聖書の記述や律法についても詳しかったということです。

神殿の儀式のこと、聖書や律法のこともよく知っている。そんな彼らでさえ、ヨハネがしていることの意味を知らなかつたし、わからなかつたんです。不安でいっぱいになつて、祭司とレビ人はヨハネに詰め寄りました。

じゃあ、あなたは一体どうして洗礼なんか授けているんですか？

この質問に、ヨハネはこれまで予想外の答えを返します。あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。その人はわたしの後から来られる方で、わたしはその履物のひもを解く資格もない。

私の後から来る救い主は、私よりもずっとあなたたちの予想を超える御方だ、とヨハネは彼らに恐ろしいことを宣言したんです。その方はもうあなたたちの中におられるけれど、あなたたちはその方のことを知らない。

あなたたちが「知らない、わからない」と不安がっている私なんか、その方の足元にも及ばないぐらいの者だ。そう言ってヨハネは、まだ誰も知らない救い主、誰にも予想できないことをする存在として、イエス様のことを紹介したんです。

ただヨハネ自身も、イエス様のことを全部知っていたわけではありませんでした。

この次の日、ヨハネは歩いて来るイエス様

の姿を見ながら、こんなことを言っています。  
「わたしはこの方を知らなかった。」  
もし、あの祭司やレビ人たちがそこにいたら、  
「あなたも知らなかつたんですか！」と  
ビックリするところでしょうね。  
イエス様とヨハネは、お母さんのマリアとエリサ  
ベトが親戚同士でしたから、会ったことがない  
こともなかつただろうと思います。  
存在は知っていたし、何なら顔も見たことがある。  
ちょっと話したことだってあるかもしれない。  
でも「わたしはこの方を知らなかつた」と、ヨハ  
ネは2回も繰り返しているんです。  
知らなかつたけれど、「私は見た」とヨハネはこ  
れも2回繰り返して言っています。  
知らなかつたことを、私はこの目で見た。  
今までになかったことを、神様が見せてくだ  
さった。  
そう言って、ヨハネはイエス様を「神の子だ」と  
証言するんです。  
神様が見せてくださるまで、私は知らなかつ  
た。私も、他の誰も、知らなかつた救いが来た。  
そうヨハネは、イエス様のことを証言しました。  
今までにない、誰も知らなかつた、予想外の救  
い主。イエス様の生き方を見て、言葉を聞いて、  
十字架での死と復活の出来事を見て、やがてイ  
エス様の弟子たちも、同じ証言することになり  
ました。  
誰も知らなかつた救いが来た。神様の独り子が、  
すべての人の救い主としてやって来られた。  
イエス・キリストは私たちの罪を赦すために死な  
れて、その死からよみがえられて、私たちに天  
の国の命をお与えになった。

2000年と少し前に、地中海地方の片隅で  
起きたこの救いの出来事は、当時の人々の  
予想を超えて、今もこうして世界中で証言  
され続けています。

聖書を通して、教会を通して、そして聖靈  
の働きを通して、神様からの愛と救いを見て、  
聞いて、受け取った一人一人が、今もこ  
の予想外の救い主を喜び祝っています。  
神様はこうやって、私たちの不安も予想も  
飛び越えて、知らなかつた救いを私たちに  
見せてくださるお方です。

みんなさんのこの一年間にも、それぞれに  
いろんなことがあつただろうと思います。  
嬉しいことや楽しいことだけじゃなくて、悲  
しいことやしんどいこと、痛くて辛いことも  
いろいろあつたでしょう。

その一つ一つを乗り越えて、今日お一人お  
一人がこうして今年最後の礼拝の場所に  
来られたことを、心から神様に感謝します。  
今もまだしんどい状況のまつただ中におら  
れるお一人お一人にも、神様が予想外の助  
けを準備しておられると信じて祈ります。

これから迎える新しい一年も、私たちが  
まだ知らない救いの出来事を起こしてくださ  
る神様に信頼して、予想外の恵みに期待  
して、ご一緒に歩いてまいりましょう。  
お祈りいたします。